

統合移転完了記念事業
実施委員会から

古き学の城から新しい知の殿堂に!!

記念事業は
全構成員がこれを確認し、
祝い、かつ誓う場としたい

統合移転完了記念事業実施委員会
小委員会委員長

学長補佐 戸田吉信



員からなる小委員会が発足した。同時に各事業を担当する六つの部会を設け、全学の各部局はそのいずれかに参画すること、および各小委員がそれぞれの部会の部会長となることを決定した。さらにその後、財政部会がこれに加わることになる。小委員会はこれまで三回開催された。小委員会の検討結果は親委員会に上げて意見を聴し、これと並行して行われてきた各部会の事業計画と予算案を調整して、十月十四日、親委員会にはかつて最終的な承認を得た。以上がこれまでの経過の概要である。この青写真をもとに、今後はそれぞれの部会で具体的な詰め作業にはいつていただくことになる。

II 事業計画の内容

まず、記念式典および祝賀会は平成七年十一月一日、主たる全学行事は十一月一日から五日にかけて行う。十月十四日の親委員会で承認された各部会の事業内容の概要および担当部局は次のとおりである。

- (一) 記念式典・祝賀会部会 (部会長 戸田・総、担当部局 総合科学部・医学部・庶務部・経理部・施設部、責任部課 庶務部庶務課)
- ① 地域に開かれた記念講演会 (総合科学部大講義室)
- ② 記念式典 (西体育館武道場)
- ③ 記念祝賀会 (西体育館、鏡開き、次郎丸太鼓、神楽、交響曲演奏等)

明年三月、学校教育学部、法・経済学部の移転をもって、広島大学は予定していた全学部の統合移転を完了する。二十年以上の歳月を要した、本学にとって文字どおり世紀の大事業といふべき移転も、いよいよ終盤を迎えるわけである。去る十月十四日、本委員会はその全体会議において、小委員会から提出された記念事業計画の概要を承認した。「広大フォーラム」前号に要を得た解説はあるが、本委員会として第一段階の任務を終えた現在、改めてこれまでの経緯と事業の内容、そして記念事業そのものに臨むわれわれの姿勢について、概括的に報告しておきたい。

I 経緯

「統合移転完了記念事業実施委員会」(以下、親委員会と略す)は、平成五年十一月、学長提案によって設置された。委員長は学長、委員は戸田、難波(以上総合科学部)、西川(文学部)、小笠原(教育学部)、間田(学校教育学部)、辻(法学部)、小村(経済学部)、西川、牟田(以上理理学部)、調枝(医学部)、二階(歯学部)、葉佐井(工学部)、中川(生物生産学部)、事務局長、計十五名である。本年四月から、経済学部は佐野教授に、歯学部は土肥教授に交代し、さらに全部局の参加協力ということで、七月以降新たに蔵本(原医研)、藤本(附属図書館)、山下(国際協力研究科)の三教授に加

わっていただくことになった。親委員会の開催はこれまで計五回。最初の二回(昨年十二月十四日および本年三月二十九日)の会合において、統合移転の意義、大学改革の流れの中で記念事業を行うことの意味、行事の内容と範囲等々について、各委員から広く活発な論議が出された結果、これを踏まえて、次の諸点を確認した。

- (A) 記念事業の位置づけを明確にする。
- (B) 全学の協力と参加によってこれを行う。
- (C) 全学事業と並行して、各学部はそれぞれの創意によって独自の行事を行う。
- (D) 地域との連携を重視する。
- (E) 全学事業を具体的に立案・推進・調整する組織として、親委員会のもとに小委員会を置く。

これを受けて、本年四月、六名の委

(二)スピーチコンテスト部会(同||葉佐井・工、同||工学部・生物生産学部・留学生センター・学生部、同||学生部留学生課)

①留学生によるスピーチコンテスト(発表テーマ「広島に留学して思うこと」、於―大学会館)

②卒業生、大学院生、留学生、地元住民によるパネルディスカッション(テーマ「統合移転を完了した広島大学に期待するもの」、於―大学会館)

(三)地域と協力したイベント部会(同||中川・生、同||教育学部・理学部・附属図書館・経理部・施設部・学生部・事務局分室、同||学生部学生課)

①バレーボール大会(北・東・西体育館)

②フェニックス・コンサート(東広島市中央公民館及びサンスクエア東広島)

③広島大学音楽科コンサート(東広島市中央公民館)

④坂田明氏講演会(東広島市中央公民館またはサンスクエア東広島)

⑤フェニックス駅伝(東広島市内)

(四)国際シンポジウム部会(同||山下・国際協力、同||法学部・経済学部・国際協力研究科・庶務部・学生部、同||庶務部国際交流課)

元西ドイツ首相シュミット氏(予定)による基調講演の後、パネルディスカッション(テーマ「アジアの躍進と日本の進路」、於―広島市国際会

議場)

(五)記念品部会(同||西川・文、同||文学部・歯学部・庶務部・経理部、同||経理部経理課)

①一般用記念品(テレフォンカード)

②VIP用記念品(検討中)

③後世に残る記念事業(東千田キャンパスの正門門柱を西条キャンパスの一角に移設し、モニュメントの形で残すとともに周辺を整備する)

(六)広報部会(同||難波・総、同||学校教育学部・原医研・総合情報処理センター・庶務部・経理部・学生部、同||庶務部企画調査課)

HINET、広大フォーラム等を活用して記念事業に向けて機運、雰囲気醸成し、かつPR活動を行う。

①記念誌の発行(第一部「歴史」、第二部「これからの夢を語る」の二部構成)

②ポスター、チラシ等による広報活動

③過去の映像フィルムの再編集等による記録の保存

(七)財政部会(同||牟田・理、同||各部会からの推薦による教官・事務官各一名、庶務部庶務課長・経理部主計課長・施設部企画課長・学生部教務課長、同||経理部主計課)

全学事業、各学部行事の財政的統括を行う。

III 記念事業に対する 広島大学の姿勢

これは、本来私の語ることではない。記念事業の意義については、すでに学長も何度か断片的に語られており、いづれまとまった所信ないし抱負の形で本誌に寄稿されることと思う。また、広報部会の立場からも、立派な文章が前号に掲載されている。

ただ、本委員会に最初から関わり、各委員の忌憚ない意見をうかがったひとりとして、一言感想を述べさせていただきます。私見であることは言うをまたない。

統合移転が広島大学にとって世紀の大事業である、といささか大仰な表現をしたのは、これがたんに長年の歳月と多大な経費、労力を費やしたという意味だけではない。新制広島大学は総合大学として出発したが、幾つかの学部が、市内はおろか県内にまたがる、典型的なタコ足大学であった。そのうえ、多くの学部は多岐にわたる前身校をもち、学部はまさに一国一城、総じて総合大学として十分に機能してこなかったのではないか。

統合移転は、たんにタコ足を解消する利便性の追求に終わってはならない。大学全体の未来像、人材活用、共同研究、施設の共同利用、カリキュラムの整理と開放、あらゆる角度から学部の壁を低くする努力こそ必要であろう。

言ってみれば、統合移転は、広島大学がまことの意味で総合大学として再生する絶好の機会なのである。この機を逃してはならない。

この意味で、学長が同窓会の大団団結を公約されたのは卓見と言わなければならない。各同窓会の会長さんにはすでに何度かお集まりいただき、話し合いがもたれている。それぞれに歴史と伝統があり、言うは易く、困難な道だとは思いますが、なんとか実現に向けて努力していきたいと思う。各同窓会がすべて、広島大学の卒業生のみによって構成される日は、確実にやって来るのである。

いまひとつ、大学はいま二十一世紀に向けて滔々たる改革の流れの中にある。改革の伝統を誇る広島大学であるが、この流れの中でいまや遅れをとっているのではないかと思える。専門教育対教養教育というとらえ方をする限り、それはたんに一般教育を教養教育という言葉に置き換えたにすぎない。いま、これについて語るときではないが、一年有余を残すだけの身にとって無念としか言いようがない。

澄んだ秋空のもと、各学部の建物は近代的な威容を誇る。古き学の城から新しい知の殿堂に。二十一世紀に向けて、広島大学はどのように改革し、どのような総合大学になることを明言し、かつ実行しているかではないか。記念事業は、全構成員がこれを確認し、祝い、かつ誓う場としたと思う。(とだ・よしのぶ)